

対立を超えた私の体験

ラグビー世界へ

パースレオ(14歳)

みなさんはラグビーを知ってますか。ラグビーは1820年頃にイギリスで始まったとされているスポーツです。あるところで友達とサッカーをしていた少年が試合中、急にボールを手に持ちながらゴールまで走ったことがラグビーの発祥だとされています。ラグビーというスポーツは一見体のぶつけ合いだけのように見えますが、実際はとても複雑で深く、面白いスポーツなのです。僕は小学5年生の時に日本で行われたラグビーワールドカップをテレビで見ました。そして僕はその迫力に驚かされラグビー選手になりたいと思い、ラグビーを習い始めました。

中学2年生の夏、僕のチームは昔からのライバルであるチームと練習試合をしました。試合の前、公式試合が近かったため、チーム内の空気はピリピリしていました。相手はとても体格が良くて激しいチームでした。そして僕と僕のチームメイト達の頭の中には相手をぼこぼこにする事しかありませんでした。しかし、試合が始まって15分も経たないうちに相手が悪質な反則(首より上へのタックル)を僕にしたので、僕はキレて相手を押しました。その結果、僕はイエローカードをもらい10分出場停止になりました。その後僕のチームはメンバーが一人いない不利な状況で試合しました。その結果いい勝負の末、2点差(コンバージョンキックの差)で負けました。試合後、相手チームとの交流がありました。互いに称賛し合ったり、次回の試合に向けて助言を交換したりしました。そして最後に試合中に悪質なファールをした相手の選手が僕に謝りに来ました。そして僕はこのような経験を通じて試合での相手は、同じスポーツを楽しむ仲間であることに気づきました。試合中の敵は試合外では仲間、対立を超えて協力することで強い絆を築き、次回よりいい試合をできるようになるのです。

僕の経験は世界的な視点に置いて考えると、ロシアとウクライナのような戦争をしている国々の対立に関係しています。そのような国々は政治的、歴史的な理由から対立することがありますが、同じ地球に住む人々であり、これからの未来を築くために助け合うことが不可欠なのです。ラグビーの試合での経験から学んだように、対立を超えて協力することで、より強い絆を築き、より良い未来を作ることができるのです。相手との関係が良くない場面でも、相手と一致する考えを見つけ協力することで、新たな共通点や解決法を発見することで未来に前進できるのです。私たち人類は皆、同じ地球に住んでいます。人類全員対立を超えて協力し合うことで、より良い世界を築くことができるのです。